



身近な環境について学ぶ

10/11・12 安曇野環境フェア2014

安曇野環境フェア2014（市・同実行委員会主催）が10月11日と12日の2日間、堀金総合体育館で行われ、約2,000人が来場しました。会場には、身近な環境や景観などについて理解を深めてもらおうとパネル展示や発電・エコドライブの体験コーナーなどのブースが設けられたほか、穂高北小学校や明科中学校などによる環境活動の発表も行われました。来場者の深澤英基さん（三郷明盛）は「子どもたちが楽しみながら環境について学べる場所がいいですね」と話してくれました。



金メダル獲得を目指して

10/14 全国障害者スポーツ大会出場選手表敬訪問

11月開催の第14回全国障害者スポーツ大会（長崎市）に県代表として出場する選手が大会を前に10月14日、宮澤市長を訪問しました。宮澤市長は「多くの選手と交流の輪を広げてきてほしい」と激励しました。今回の大会に市からは陸上競技や卓球に4人が出場。陸上競技で2回目の出場となる曾山長男さん（三郷明盛）は「久しぶりの全国大会でメダル獲得を目指し、市の代表として頑張りたい」と意気込みを話してくれました。

豊科南中と北中が30周年

10/30・31 豊科南中学校・豊科北中学校開校30周年記念式典

開校30周年を迎えた豊科南中学校（藤松伸二郎校長・334人）と豊科北中学校（丸山強校長・447人）で記念式典が生徒のほか、来賓や地域の皆さんなども参加し開かれました。両校は、昭和60年4月、生徒数の増加に伴い、豊科中学校が2校に分かれて開校。それぞれが伝統を受け継ぎながら、独自の校風を築いてきました。

10月30日に豊科南中学校で行われた式典には約600人が出席。各学年代表の作文発表のほか、映像で学校の歴史を振り返り、生徒会が制定し命の大切さを謳う「南中憲章」や、隣接する県立こども病院との交流などを紹介しました。式典の最後には、こども病院で闘病生活を送り亡くなった宮越由貴奈さんの詩を歌にした「命」を全校で合唱しました。

また、翌31日に豊科北中学校で行われた記念式典には約800人が出席し、学年ごとの合唱などが行われました。北中生徒会長の小林響くん（3年）は、これまでの伝統の上に新たな変化を加えていくことが大切とし「生徒一人ひとりが進化し続けることが、地域の誇りとされる北中につながります」と在校生に訴えました。



豊科南中（写真右上・左上）、豊科北中（写真右下・左下）



秋空の下 各地域で運動会

10/19 5地域市民運動会

恒例の市民運動会（各地域市民運動会実行委員会主催）が10月19日、市内5地域で開催されました。好天に恵まれた秋空の下、会場には子どもから大人まで多くの市民が集まり、さまざまな競技を楽しみました。

このうち、豊科地域では13種目に約2,700人の市民が参加。「綱引き」や赤組白組に分かれての「騎馬戦」、そして「地区公民館対抗リレー」などが行われ、大きな声援が飛び交っていました。

また、明科地域では11種目に約1,300人の市民が参加。ゴム長靴を投げ、その距離を競う「天までとどけ」や、むかどと3人4脚、2人3脚などを組み合わせた「加速リレー」などユニークな競技が行われました。加速リレーに参加した金井清一さん（明科南陸郷）は「とてもうまくでき、楽しめました。日ごろの運動不足を少しは解消できたと思います」と話してくれました。



豊科地域（写真右下）、明科地域（写真上・左下）



戦国武将になつたみたい

11/1 豊科郷土博物館「安曇野のいくさ」展

戦国時代の安曇野の民衆の様子を探る「安曇野のいくさ～いのちを守る戦国の知恵～」展が10月4日から豊科郷土博物館で始まり、関連イベントとして「戦国武将のよろいを着る体験」が同館で行われています。館内では厚紙やアルミで再現した真田幸村や伊達政宗などのよろいを着て、記念写真を撮る人の姿が見られ、11月1日に妹と一緒に体験した若林さや華ちゃん（穂高北小4年）は「昔の人になつたみたいでかっこいいです」と話してくれました。同展は11月24日まで行われています。



地元の農産物などを多数販売

10/25 第19回ほりがね特産まつり

ほりがね特産祭り（実行委員会主催）が10月25日、旬の味ほりがね物産センターで開催されました。当日は、地元農産物や加工品などの販売のほか、小中学生による吹奏楽の演奏や合唱、ダンスなどのステージ発表があり、多くの人で賑わいました。

学校の実習で作ったジャムなどを販売した南安曇農業高校の鳥羽ひろ美さん（3年）は「地域の皆さんに活動を知ってもらいたい良い機会だと思います。販売を通じて、来場者と触れ合えるので楽しいです」と話してくれました。